

自死遺族の方々の ケアについて

- 宗教者だからできること -

2012年 5月 29日(木)

午後6時 ~ 午後8時30分

真宗大谷派名古屋別院 (東別院:名古屋市中区橘2丁目8番55号)
東別院会館 1階ギャラリー

講師 森崎雅好氏(高野山大学助教)
臨床心理学(臨床心理士)
千葉大学大学院教育学研究科修士課程修了
(教育学修士)

対象 僧侶(宗派は問いません)または宗教者

会費 1,000円

主催 いのちに向き合う宗教者の会

問合せ info@inochi.in



「苦しい」と、誰にも言えない...。
悲しむことすらできない...。

自死遺族は、自責の念や世間の心ない言葉に苦しみ
過酷な生活を強いられている...。

自死遺族とどのように向き合えば？
宗教者だからこそ、できることは？

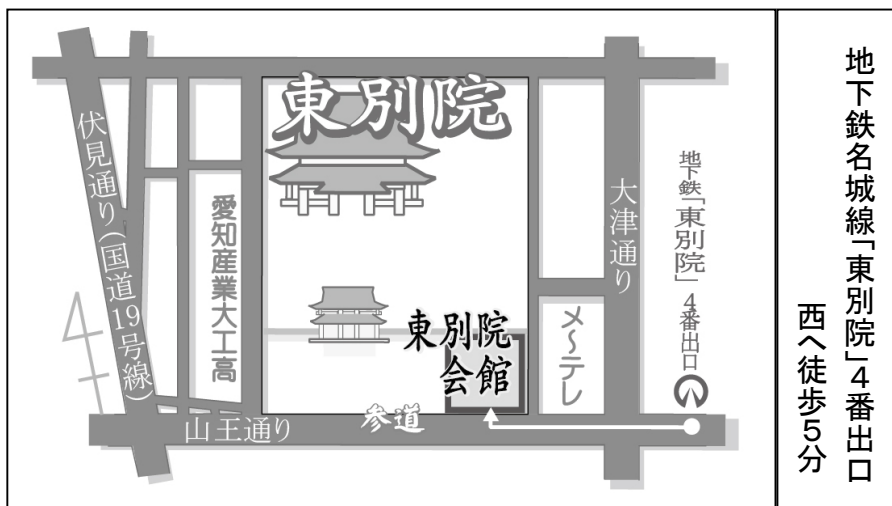


趣旨

日本の自死者数は、1998年以降、毎年30,000人を超える状態が続いている。このことは、毎日90人もの人が日本のどこかで自死していることであり、先進国の中でも突出している数字である。自死により大切な人を亡くした遺族(家族、友人、恋人)などに与える心的衝動や悲しみは量りきれず、一人の自死をとりまく数十人の人々が深く傷つき、苦しい思いをされている状況が続いている。

さらに、遺族や故人と近い間柄にある人々は、自責の念からくる極度の心的ストレスを受けることが多く、時には故人の負債を相続させられたり、自死現場となった賃貸物件の所有者から巨額の損害賠償を請求されることもある。そして、社会の偏見や無理解が根強く、悩みを相談することはもちろんのこと、葬儀すら人目をはばかり、隠れるように執り行うケースもある。このようなことから、遺族は社会から孤立し、自責の念が増大していくという悪循環をたどり、遺族もまた自死を選択せざるを得ないという最悪のケースもある。

以上のような自死遺族の心的身体的苦痛を鑑み、宗教者として葬儀を執行するなど、遺族と関わる機会のある者として、私たちが心がけるべき姿勢について学ぶことを願いとして、今回の講習会を開催する。



ごあいさつ

私たちは、宗教・宗派を超えた宗教者の会です。2009年、自死者追悼法要「いのちの日 いのちの時間 東海」を開催するにあたり、実行委員会として有志の仏教僧侶が集ったことが始まりです。以後、自死遺族への取り組みだけでなく、自死の背景にある現代の諸問題はすべて「いのち」に関わることとして、幅広く向き合っていく活動を願いとして「いのちに向き合う宗教者の会」となりました。また、会員は仏教の僧侶だけでなく、あらゆる宗教の方とともに活動していきたいとの願いも持っています。

毎年12月の自死者追悼法要の際には、法要後に茶話会を開き、自死遺族の方々の声を聞いてきました。今回、このような講習会を開くにあたり、皆様とともに、宗教者への期待や求められていること、宗教者だからできることなど、考えていきたいと思っております。また、当会の活動に賛同くださる同志の方に出会えることを願っております。

いのちに向き合う宗教者の会 代表
臨済宗妙心寺派大禅寺住職
根本 紹徹

いのちに向き合う宗教者の会 <http://inochi.in>